

脳ドックの実施

脳ドックは、脳卒中などの脳の病気の早期発見や予防を目的としています。

脳の病気は自覚症状があらわれずある日突然発病し、重い後遺症や死に至ることもありま

す。そして高額な医療費は本人や町への負担も大きいのしかかりま

す。実は検査料金はとても高額ですが、国保の予防事業として重点をおく価値があるので



今年度脳ドックの受付は、本誌P17でご案内しています。

※脳ドックの検診料金は、一般的に2万円から5万円位の範囲で医療機関が設定しています。(自由診療)  
国保では自己負担が9千円(人数限定)で受診できる対策を今年も実施しています。

予防接種

予防ワクチンには感染発症(予防や重症化の予防などの種類があり効果の度合いも含めご本人の判断が必要ですが、町では接種を実施された方への接種料金の一部助成を行っています。季節性インフルエンザは国保も負担して医療費の抑制を図っています。



町が実施するワクチンの接種料金の助成は、新たに承認されたワクチンについても検討が行われています。

町の助成事業を決定するまでには財源確保の理由や接種体制(受入可能な医療機関など)の確認(調整)作業を行います。

なにより安全性の確認が一番難しいのです。



タイトルを「医療費を使つて減らす」としては無理があるのでは、さきほどから触れている特定健診や予防対策を使つて減らす効果を想像してください。

利用すると健診料金など負担は増えるのですが、糖尿病や腎臓病などのたいへんな病気の危険因子を早く診つけて、健康教育などで回避できれば生涯つきまとうであろう医療費負担(推計数千万円にもなる)を軽減できるのです。

それは加入者の保険税値上げ抑制する効果もあり、一番良いことは「健康を維持できること」で一石二鳥以上のことではありませんか?

ただし、これは対象者の方々に関心を持つて健診などを受けてもらうことが必要です。

会計の

お話しですが...

平成21年度は、会計の収入が3千万円ほど不足し保険給付費支準備基金をすべて使い、さらに支出とのバランスを整えるために町から1千3百万円超のお金を出しました。「何で町が?」と感じる方もいるとは思いますが、今まで説明した予防策も含めて町と国保が連携の中で町民の健康対策を実施しています。

これからは普通に事業を行つていても安平町国保会計は赤字が予測されますが、加入者の保険税を上げるだけで解決できない問題なので、加入者非加入者を問わず関心を持つて欲しいのです。

保険給付費支準備基金

医療費の急な増加などに備えて国保では基金を積み立てています。(貯金です)

本来保険税の中から積み立てるものですが、安平町の場合、町からお金を出して積み立てたものです。

今回のまとめと 次回の予告

国保会計がとても危機的な状況の中で医療費を抑える取り組みや課題の大枠をご紹介します。

「大変だからこうします。」といった結論がはつきり表現できていないのは、次回以降の「保険税」や「健診項目」などの特集で本質から説明ができるような政策広報を企画しています。

皆さんが関心のある町の事業などがあればご意見をお寄せください。

その中からテーマを絞って掲載します。